

安川電機 2023 年度 第 1 四半期 決算オンライン説明会 質疑応答 (サマリー)
(2023 年 7 月 7 日 (金))

【回答者】

代表取締役 専務執行役員 村上 周二

上席執行役員 コーポレートブランディング本部長 林田 歩

(注記) :

モーションコントロール : モーションコントロールセグメント

AC サーボ : AC サーボ・コントローラ事業 (モーションコントロールセグメント)

インバータ : インバータ事業 (モーションコントロールセグメント)

ロボット : ロボットセグメント

システムエンジニアリング : システムエンジニアリングセグメント

その他 : その他セグメント

Q 2023 年度 1Q の売上収益における為替影響は ?

A 全社で+53 億円。

内訳は、モーションコントロール +27 億円、ロボット +22 億円、システムエンジニアリング +4 億円。

Q 2023 年度 1Q の AC サーボ・インバータの所在地別売上比率は ?

A AC サーボ : 国内 32%、米州 18%、欧州 11%、中国 32%、中国除くアジア 7%

インバータ : 国内 20%、米州 42%、欧州 10%、中国 18%、中国除くアジア 10%

Q 2023 年度 1Q のモーションコントロール売上に占める AC サーボ:インバータの比率は ?

A 54 : 46

Q 決算補足説明資料(P.25)の受注推移について、2022 年度 3Q の各事業の地域別増減率は ?

A ・AC サーボ

YoY : 全体 ▲37%。

内訳は、国内▲50%、米州▲55%、欧州▲42%、中国+36%、その他アジア▲82%。

QoQ : 全体 +7%。

内訳は、国内▲23%、米州▲10%、欧州▲23%、中国+97%、その他アジア▲35%。

・インバータ

YoY : 全体 ▲18%。

内訳は、国内▲5%、米州▲10%、欧州▲53%、中国▲26%、その他アジア▲22%。

QoQ : 全体 +5%。

内訳は、国内+20%、米州+2%、欧州▲24%、中国+3%、その他アジア+14%。

・ロボット

YoY：全体 ▲10%。

内訳は、国内▲28%、米州+27%、欧州▲8%、中国▲48%、その他アジア+98%。

QoQ：全体 +7%。

内訳は、国内▲3%、米州▲13%、欧州▲18%、中国+17%、その他アジア+64%。

※YoY(year-on-year) = 前年同期比、QoQ(quarter-on-quarter) = 前四半期比

Q 中国の AC サーボの受注状況について、1Q の振り返りと足元の状況を聞きたい。QoQ で +97%と大きく増加した理由は？

A 通常 AC サーボの受注は、春節明けから立ち上がる傾向にある。よって、今年も 1Q は改善する前提で考えていたが、緩やかな回復となっている。一方、そのような状況下においても太陽光発電関連では積極的な投資が進み、それらの需要を確実に捉えた。また、レーザー加工機など中国で競争力の高いお客さまに採用されたこともあり、想定よりは良い状況となった。この分野は中国が政策として注力しており、今後も需要は底堅く続くと考えられる。

Q 中国において在庫調整は起こっていないのか？

A 元々在庫を増やしていなかったため、調整は起こっていない。

Q 営業利益増減要因で、モーションコントロールの付加価値増減が▲7億円なのはなぜか？

A AC サーボとインバータの構成比の変化が主な要因である。AC サーボの需要が弱い反面、インバータは堅調に推移している。しかし、インバータは AC サーボより限界利益率が低いので、インバータの構成比が上がったことにより付加価値率が低下した。半導体市場など AC サーボの需要が立ち上がってくれば回復してくる。

Q 中国の受注は、緩やかな回復が継続する見通しか？

A 中国内需の回復持続は短期的には期待はできないものの、太陽光、バッテリーに続く、蓄エネなどの市場が徐々に立ち上がりつつあるため、これらが次の需要をけん引すると考えている。3C（Computer, Consumer, Communication）や消費財分野については、生産拠点が中国からアジアにシフトしているため、中国国内投資はあまり活況ではないが、これからは中国で設備を調達して海外に輸出する流れが主流となり改善していく想定だ。

Q 半導体の在庫調整は一服しそうか？

A 上期の半導体市場の需要はもともと底這いで推移すると見ており想定通りだ。一部のお客さまで発注が始まったが、市場全体の需要回復の流れではない。本格的な立ち上がりは下期後半から来年にかけてと想定している。

Q 営業利益の YoY 増減要因について、付加価値増 +7 億円の内訳は？

A 主な要因は、材料費高騰影響が▲17 億円、物流費はピークアウトし +6 億円、価格転嫁影響で +14 億円。

Q Σ-X の切り替え率は？

A 中国では 5 割弱、全社では 3 割強。

Q 1Q 業績は社内の期初計画と比較しどうだったか？

A 社内の計画に対しほぼ想定通り。為替が円安に進行した分はプラスだったが、その他収益で 7 億円ほどの固定資産の除却損が発生したため相殺となった。売上面ではロボットが仕掛りに溜り期ずれしたが、その分をインバータの生産が回復しこれを補った。

Q 受注は期初計画と比較しどうだったか？

A 中国のロボットで EV 関連の案件が期ずれを起こし、想定より若干下振れた。それ以外の部分はもともと強い受注を想定していなかったのが概ね想定通りだ。市場別の動向では、リチウムイオン電池関連の設備投資は足元で一服している。一般産業分野についても中国全体の消費動向と連動し弱い状況が続いているが、その一方で、中国の政策にけん引され太陽光発電用パネル量産設備向けが好調だ。自動車市場では、ガソリン車向けの投資は弱いものの、欧米では EV 関連の設備投資が立ち上がりつつあり、この需要が 2Q から動き出すとみている。

Q 自動車の EV 化にあたり“ギガプレス”が注目されているが、当社のビジネスにどのような影響があるか？

A 当社は OEM メーカーの組立ラインに対するスポット溶接ロボットはあまり強い領域ではないため、ギガプレスに変化しても直接的な影響は少ないと考える。EV では、バッテリーケースなどのアーク溶接やレーザー溶接の用途が広がるなど、部品加工の領域が拡大していくため、当社ビジネスとしてはプラス影響。

Q 2Q の受注の見通しは？

A モーションコントロールの中国受注は、例年通りで 1Q が強く、2Q 以降、若干落ちる想定。ロボットは 1Q からずれた案件もあり、2Q は上振れを期待している。インバータはかなり多くの受注残を抱えており、納期の改善にともない発注がどうなるかは読めないため、2Q あたりから調整の可能性もある。全社的には、1Q からほぼ横ばいの水準を計画している。

Q 1Q のロボットの受注を QoQ で見るとアジアの伸びが大きい。この背景は何か？ 持続性はあるのか？

A 韓国の大手自動車 OEM から EV 関連の大型案件を受注した影響が大きい。昨年連結子会社化したドリム安川は、年に数件大きな案件を受注するため、その分の受注が大きく振れる。

Q 中国の太陽光関連市場におけるローカルメーカーとの競争環境はどうか？

A 当社のお客さまである太陽光発電パネルの製造装置メーカーはトップ企業であり、コストよりもその装置を使って作る太陽光パネルの品質や歩留まりの改善に価値を求めている。当社は i³-Mechatronics のコンセプトによって付加価値の高い提案を行っている。また、装置の前後工程では大型ロボットも使われており、お客さまの装置と当社のロボットを連携した案件にも取り組んでいる。そのため、ローカルメーカーと価格で勝負するような競争にはならない。

Q ロボットの売上が 4Q から 1Q にかけて減少している理由は？

A 主な要因はその他アジアの減少。これは 4Q にあった大口案件が剥落したため、納入の先送りなどが頻発しているわけではない。また、1Q はシステム案件の仕掛かりが増え 2Q にこれが売上がる。

Q 年間の経費増を 100 億円と計画していたが、1Q 時点で既に 40 億円増えている。どう考えるか？

A 昨年度の 1Q の経費が中国ロックダウン影響などにより少なかったためである。年間の経費は期初の計画通りに収める。

以上